

教員の総合業績(基礎資料)調査 氏名(寺沢秀雄)

1 研究業績

1) 著書・論文・学会発表・作品など(2000-2006年度に限る)

例:(欧文の場合は、原文 alphabet で記入してください)

#全著者あるいは作者名(自己にアンダーライン、単著の場合はアンダーライン不要)

&著書、学術論文又は作品の名称

\$発行所(総頁数)、発表雑誌又は発表学会(号・巻・pp・年月)、展覧会(場所・期間)などの名称

さらに、特別講演・シンポジウム(招待講演)・一般講演など(地方支部会・全国大会・国際会議)の別

註:学会・展覧会など、専門分野以外の人に分りにくい場合は、できるだけその社会的位置づけ、歴史、規模などの簡潔な説明を付してください

国内学会

1) 寺沢秀雄・安原七重:おもちゃを素材とした情報デザイン教育ーインタラクショナルデザインを中心とした情報デザイン教育の試み(1), デザイン学研究, 256-257, 日本デザイン学会, 2001年

2) 戸崎幹夫・寺沢秀雄・水谷 元:伝言ゲームを題材とした情報デザイン教育ーインタラクショナルデザインを中心とした情報デザイン教育の試み(2), デザイン学研究, 258-259, 日本デザイン学会, 2001年

3) 寺沢秀雄:料理の注文を題材とした情報デザイン教育ーインタラクショナルデザインを中心とした情報デザイン教育の試み(3), デザイン学研究, 138-139, 日本デザイン学会, 2002年

4) 寺沢秀雄・一之瀬美帆・梅澤朝樹・丹羽あづさ:手の動きをモデルとした情報検索ーインタラクショナルデザインのモデル化研究, デザイン学研究, 348-349, 日本デザイン学会, 2002年

5) 寺沢秀雄・斉藤智子・安川朱里:カードインタフェースによる造形要素の検索と組み立てー子どものためのインタラクショナルデザイン研究, デザイン学研究, 210-211, 日本デザイン学会, 2003年

6) 寺沢秀雄・田浦俊春:行為と自然現象の結びつけによるインタフェース発想ーインタラクショナルデザインにおける創造性研究, デザイン学研究, 104-105, 日本デザイン学会, 2004年

7) 寺沢秀雄・本間多恵・有馬由桂・小笠原佳菜子・柴田麻衣子・山下久乃:街の観察による情報デザインの学び場づくりー函館セミナー活動報告(2), デザイン学研究, 50-51, 日本デザイン学会, 2004年

8) 蓑輪要佑・寺沢秀雄:時間調整の可視化インタフェースー時間調整のモデル化研究, デザイン学研

究, 106-107, 日本デザイン学会, 2004 年

9) 寺沢秀雄・田浦俊春・永井由佳里: Found Behavior - 対話経験の参照によるインタフェース発想ーインタフェースデザインにおける創造性研究(1), デザイン学研究, 106-107, 日本デザイン学会, 2005 年

10) 寺沢秀雄・木幡愛理・小野田篤・山崎真湖人: 電子フォームデザインのための人のふるまいの観察ー電子フォームのインタラクションデザイン研究 デザイン学研究, 362-363, 日本デザイン学会, 2006 年

国際会議

1) Terasawa, H. Ito, Y. Shibata, M. and Yamashita, H.: The research to reconstruct the knowledge in the education of children - Intelligence Block, 6th Asian Design International Conference (Tsukuba), CD-ROM P-80, 2003

2) Terasawa, H. Taura, T. Nagai, Y.: Found Behavior: Key of Interface Design - Interface Design Originated from Interactive Experience, International Design Congress - IASDR 2005 (Taiwan), CD-ROM P-35, 2005

雑誌

1) 21 世紀デザイン KEYWORDS: 寺沢秀雄・植村朋弘・佐々木成明・原田康徳・モリワキヒロユキ・伊東洋次, インターコミュニケーション No.43, pp.91-94, NTT出版, 2003 年

2) 学会活動 (役員・会員)、学会の組織運営、学会誌の編集委員など (平成 12-18 年度に限る)

例:

学会などの名称

& 編集委員長又は委員などの別

\$ 任務期間 (年月)

註: 専門分野によっては適宜変更 (例えば、学会を展覧会などと記す)・追加説明を付してください できれば展覧会・学会などについても社会的位置付け、歴史、規模などの簡潔な説明を添えてください

1) 日本デザイン学会, 会員, 1983 年度-現在

2) 日本デザイン学会情報デザイン研究部会 (Info-D), 設立委員, 2001 年度-現在

3) 日本デザイン学会第 48 回研究発表大会情報デザイン分科会, 座長, 2001 年 10 月

4) 日本デザイン学会春季大会, 実行委員, 2002 年 5 月

5)財団法人画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会) 次世代検定研究(カリキュラム検討分科会 情報デザイン・システム担当), 委員, 2002 年度

6)日本デザイン学会, 評議員, 2005 年度-現在

7)NPO 法人人間中心設計推進機構(HCD-Net), 評議委員, 2005 年度-現在

3) 研究費獲得状況(未来大学外からの財源)(科学研究費、財団助成金、委任経理金など(2000-2006 年度に限る))

例:

#平成 12-(13)年度

&財源、たとえば科学研究費補助金

\$ 研究課題名

%代表者、分担者の別、研究課題参加者数、あるいは〇〇研究所との共同研究(相手機関の協同研究者数など)

¥研究経費(例:平成 12 年度; 800 千円、平成 13 年度; 500 千円)

なし

4) その他(特許、内地研究(学内共同研究は除外)および在外研究歴と成果など特記すべきこと。本項目は 2000-2006 年度に限定しない。)

1)データ放送インタフェースに関する調査委員, 日本放送協会・株式会社電通・アライドブレインズ株式会社, 2001 年 4 月-2002 年 3 月

2)委託研究 FAQ ナビゲーションデザインの研究, 日本電信電話株式会社 NTT サイバーソリューション研究所, 武蔵野美術大学, 2003 年 2 月

3)委託研究 InfoLead を用いた情報検索の研究, 日本電信電話株式会社 NTT 情報流通プラットフォーム研究所, 武蔵野美術大学, 2003 年 3 月

4)産学協同プロジェクト 電子ペーパーのインタラクションデザイン研究, 富士ゼロックス株式会社 ヒューマンインターフェイスデザイン開発部, 武蔵野美術大学, 2005 年 2 月

5)共同研究 地方自治体における電子フォームのインタラクションデザイン研究, アドビスシステムズ株式会社ユーザーエクスペリエンス, 2006 年 1 月

6) 共同研究 検索サイトのユーザ・インターフェースに関する研究(1), NTT レゾナント株式会社ポータル事業本部, 2006 年 2 月

7) 共同研究 検索サイトのユーザ・インターフェースに関する研究(2), NTT レゾナント株式会社ポータル事業本部, 2006 年 9 月

8) 共同研究 小型画面での GUI の可能性についての研究, 株式会社コト, 2006 年 9 月

9) 研究委員 将来研究テーマ検討, CRX プロジェクト(キヤノン株式会社・株式会社リコー・セイコーエプソン株式会社・富士ゼロックス株式会社), 2006 年 10 月-現在

2 教育業績

1) 教育負担の実態 (複数教員で担当する科目の場合は、貴方の分担分のみ) 本項目は時間割に含まれた教科 (補講・補習など教室で行なったものは含む) を調査の対象としております。従って、〇〇研究会、〇〇同好会など、各教員室他で行なったものは、対象外とします。試験やレポートなどの採点時間も除外します。(2000-2006 年度に限る)

例:

科目名 (講義・演習・実習・補講の別)、単位数・必修/選択の別、担当教員数 (単独の場合は不要)

& 実施期間 (平成 12 年度前期、あるいは平成 13 年 10-11 月)、実施コマ数 (休講しても補講で補えば算定する)、補講をしなかった休講回数 (例: 実施 13 コマ、休講 2 コマ)

\$ 実働時間数 (全て、実時間合計(推定)値でお願いします)、演習などは一コマ 1.5 時間を超えていると思われるので、そのような場合は、たとえば一コマ 2.2 時間などと算定してください (例: 実働 22.5 時間)

% 受講登録学生数 (例: 45 名)、平均的出席者数 (例: 38 名; 初めは 40 名、終りは 25 名など)、単位認定 (合格) 者数

註: 本項目はできるだけ正確にお願いしたいですが、概数でも結構です 記述がない場合は 0 と判断します

2006 年度

1) 情報デザイン II, 講義, 2 単位, 選択, 後期

2) 情報デザイン演習 II, 演習, 2 単位, 選択, 後期

3) 情報表現基礎 I, 講義, 2 単位, 必修, 後期

- 4) 情報表現基礎演習 I, 演習, 2 単位, 必修, 後期
- 5) 現代デザイン論, 講義, 2 単位, 選択, 後期, 教員 7 名
- 6) システム情報科学実習 I, 実習, 2 単位, 必修, 前期, 教員 3 名
- 7) システム情報科学実習 II, 実習, 2 単位, 必修, 後期, 教員 3 名
- 8) 卒業研究, 講義, 8 単位, 必修, 通年

2) 成績評価方法 (その方法を具体的に記載・学生 (社会) が納得するような具体的説明。) また、複数の教員で担当する科目の場合は、取りまとめの方法についても記述してください。

課題 (作品・レポート等), 発表 (方法および態度), リフレクション (学びの記述), 出席率などにより総合評価する

3) 講義方法など改善への努力 (FD 関連の講演会などの聴講回数、教育内容とそれらの効果について貴方が行われた事柄・目標を具体的に記述して下さい)。

1) 日本デザイン学会情報デザイン研究部会 (Info-D) カリキュラム開発研究プロジェクトにおける発表および聴講に参加, 2001-2003 年

4) その他 (上記以外に特記すべきことがありましたら、簡潔かつ具体的に、箇条書きなどで記述してください。特に、貴方が作られたシラバスと現在教務委員会で検討されている (コース別) 講義内容・目標、あるいは JABEE などの関連、並びに貴方が担当されている科目の位置付けなどについてご意見があれば記して下さい。また、本学は教員の専門分野が多岐にわたっているため、相互理解を目的としたコース特有の問題点や、皆さんの教育に対する抱負などを記述して戴いても結構です。)

特になし

3 大学の管理運営

各種委員会（委員長・委員、クラス担任、学習指導・生活指導、クラブ活動の顧問等の実績（具体的に記述してください、できれば実働延べ時間数など）、その他。（2000-2006年度に限る）

- 1)2005年度 学生委員 委員
- 2)2005年度 人権・実験倫理委員会 委員
- 3)2005年度 クラス担任(1年生Iクラス)
- 4)2006年度 学生委員 委員長
- 5)2006年度 国内国際連携委員会 委員
- 6)2006年度 クラス担任(1年生Fクラス)

4 その他

資格（技術士など）、地域への貢献（地域自治体審議会、委員会等の役員、委員。地域との共同研究・技術相談。公開講座・出前授業・市民向け講演）あるいは提言・御意見など。（2000-2006年度に限る）

- 1)日本デザイン学会秋季大会オーガナイズドセッション事例発表「情報から次世代デザインを展望する」Info-D カリキュラム開発プロジェクトの活動報告, 2001年10月
- 2)日本グッド・トイ委員会おもちゃコンサルタント研究会 講演「おもちゃデザイン学概論」, 2002年4月
- 3)日本デザイン学会秋季大会オーガナイズドセッション「企業と学校の間－知的創造のカフェを作る」企業と学校の新しい関係－InfoLead プロジェクト事例報告, パネラー, 2002年11月
- 4)はこだて情報建築セミナー(hakosemi 2003)世話人「街の可視化－情報のこすりだし」, 2003年8月
- 5)公立はこだて未来大学第1回公開講座パネラー「サイエンス・アライアンス－地域における大学」, 寺沢秀雄・中島秀之・西尾正範・Adrian Cheok・久留里愛弓, 2005年6月
- 6)はこだて情報建築セミナー(hakosemi 2005)世話人「街の可視化－情報のこすりだし」, 2005年9月
- 7)模擬授業講師「人とモノとの対話をデザインする－インタラクションデザイン」, 北海道函館東高等学校共同学習プログラム, 2005年9月
- 8)未来パーティー(インタラクションデザイン・パーティー)コーディネーター 第1回「社会人ビギナーのリフレクション」, 共同研究センター秋葉原サテライトオフィス, 2005年9月

9) 未来パーティー(インタラクシオンデザイン・パーティー)コーディネーター 第2回「未来パーティーのデザイン」, 共同研究センター秋葉原サテライトオフィス, 2005年11月

10) 未来パーティー(インタラクシオンデザイン・パーティー)コーディネーター 第3回「未来パーティーのデザイン2」, 共同研究センター秋葉原サテライトオフィス, 2006年2月

11) オープンキャンパス発表, 「インタラクシオンデザインセミナー」・「さわれる! ソーシャルネット」, 2006年8月

12) 第1回「人と情報の未来展」(2006年度公立はこだて未来大学有志活動報告会)主催, 共同研究センター秋葉原サテライトオフィス, 2007年3月